「体育心理学実習」の授業評価

保健体育講座・田中雅人

１．授業の概要

この授業では，体育・スポーツに対し，心理学的側面からアプローチする場合の方法論を理解し，体育やスポーツ場面における問題を研究するための有効な手法を習得することを目的とした．また，到達目標は，１）情報の収集，および多変量解析を用いた解析ができる，２）質問紙・テストの作成，およびその信頼性・妥当性の検討ができる，３）適切な実験計画，および統計処理による解析ができる，４）ゲーム分析の目的，およびゲーム分析に必要な視点を理解することができる，の３つとした．

３つの到達目標を達成するために，体育心理学で用いられる研究法について概説したのち，１）ＫＪ法，２）因子分析，３）質問紙調査，４）実験計画法，５）ＳＤ法，６）ゲーム分析の実習およびレポート作成を行った．

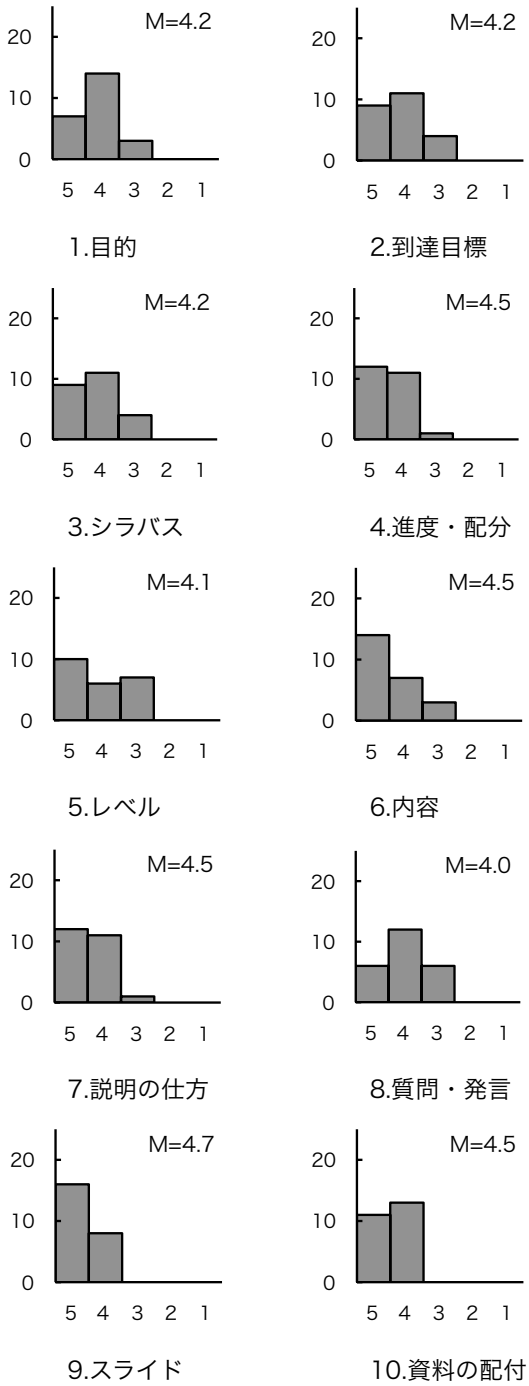
受講生は２年生24名で，スポーツ経験が豊かであったため，実習で得られた結果をスポーツの実践場面へどのように一般化できるのか考察することを主眼に置いた．また，実習はすべてグループワークとし，データの配付などにはできる限りネットワークを利用した．評価は，実習への取り組み，実習ごとのレポート，プレゼンテーションの内容などを総合して行った．

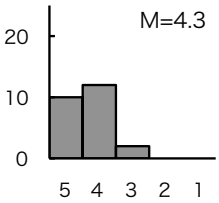
２．授業評価

以下の５領域・15項目に対する５段階評定と自由記述による調査を実施した．各項目の評定の平均値とヒストグラムを示した（図１）．

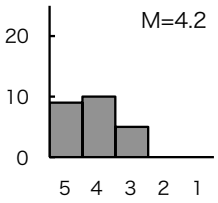
●理解度
１．授業の目的は，十分に達成された．
２．到達目標は，十分に達成された．
●授業内容
３．授業は，シラバスに則して行われた．
４．授業の進度・時間配分は，適切であった．
５．授業のレベルは，適切であった．
６．授業内容は，役に立つものであった．
●教授方法
７．説明は，わかりやすかった．
８．質問や発言の機会が適切に与えられていた．
９．スライドの使い方は，効果的であった．
10．配付配付資料の使い方は，効果的であった．
11．教員の授業に対する意欲・熱意を感じた．
●受講生の意欲・関心
12．授業に対して意欲的に取り組んだ．
13．授業の内容に対して興味・関心があった．
●評価に関わるもの
14．レポートの内容は，授業内容に則していた．
15．評価の方法は，適切であった．

図１

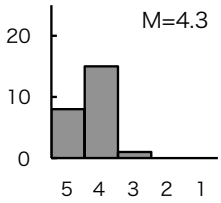




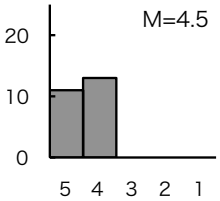
11.教員の熱意



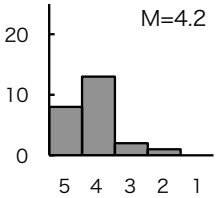
12.意欲



13.興味・関心



14.レポート



15.評価の方法

1）理解度

評定値が4.0を超え，目的・目標は，概ね達成された．自由記述にも「さまざまな研究方法を知ることができた」「レポートのまとめ方がわかり，他の授業にも役立った」などの記述が多くみられた．また，「エクセルの操作方法を詳しく教えて欲しかった」という記述があり，１年生後期に開講している「スポーツ情報処理」の未履修者にとっては，データ処理が難しく感じられたかもしれない．次回は，授業開始時に履修状況を確認し，未履修者に対しては個別に対応するようにしたい．

2）授業内容

４つの項目すべてにおいて評定値が4.0以上の高い値を示した．授業の最初にシラバスを提示し，授業の流れを把握できるようにし，また，授業は，ほぼシラバス通りに行われたことから，進度や時間配分についても目立った問題はなく，「４.進度・時間配分」では，ほとんどの受講生が５あるいは４と評定していた．「６.授業内容」の評定値も4.5と高かったが，「スポーツ場面におけるプレッシャー・ストレスについて勉強したかった」「ゲーム分析をもう少し深く学びたかった」などの意見もあった．できる限り受講生の興味のある実習テーマを設定するように努力したい．なお，「5.授業のレベル」の評定にはばらつきがあり，やや難しいと感じている受講生もいたことから，実習の手続きの説明，分析方法の解説など，さらに検討することが必要である．

3）教授方法

この授業では，板書は極力行わず，スライドと配付資料を用いた．「７.説明の仕方」「9.スライド」「10.資料の配付」のいずれの評定値も4.5以上と高く，実習の手続きを配付資料にまとめ，スライドを用いて説明する方法はわかりやすかったようだ．「11.教員の熱意」の評定値は4.3であったが，「8.質問・発言」の評定値は4.0であった．この授業はグループワークが中心であったため，グループ内での発言は多くみられたが，教員に対して質問・発言する機会が少なくなったと思われる．グループでの活動と全体への教授のバランスを考えなければならない．また，グループ単位で実習を行うことについては，受講生に好評であった．「グループ内で役割分担ができる」「様々なアイデアが出て，知識を共有することができる」「授業が活性化する」など肯定的な意見が多かったが，「積極的にやらない人がいる」「考えをまとめるのに時間がかかる」など少数ではあるがマイナス面を指摘する受講生もいた．グループのメンバーによる相互評価を取り入れるなど改善策を検討する必要がある．

4）受講生の意欲・関心

「12.意欲」の評定値は4.2，「13.興味・関心」は4.3と比較的高い値を示した．また，「活発に活動できた」「スポーツを観る視点が変わった」など具体的な記述もみられた．

5）評価に関わるもの

評価は，質問紙の作成，実験計画，実習ごとのレポート，プレゼンテーションおよび学習状況を得点化して，その総合点としたが，「15.評価の方法」の評定値が4.2であったことから評価方法は，概ね妥当であったと思われる．なお，「14.レポート」の評定値は4.5と高く，レポートを作成することで実習の目的や方法を再確認できたようだ．なお，一部の受講者からは「レポートが難しかったので，もう少しレベルを低くして欲しい」「レポート返却後の解説をもう少し詳しくして欲しい」などの要望があったので，次回は再検討したい．

3．まとめ

すべてをグループワークとした実習は概ね好評であったが，不公平感を抱いている受講生もいたため，次回は評価法を工夫したい．また，データの収集や入力など授業時間外の課題も多く，受講生に過度な負担にならないよう留意したい．